

## 2020年度 活動実績

**はじめに** 当年2～3月頃にかけて国内にも新型コロナウイルス感染が拡大し、本年度4月そうそうに新型コロナウイルス感染拡大防止のために全国的に緊急事態宣言が発出され、日常活動が制限されるなか、当くらぶも4月～5月の間、豊島での活動を休止することにした。5月下旬の緊急事態宣言解除後も、香川県や地元土庄町の感染対策要請や島民・地元活動協力者などの動向、意向などを見極め6月の田植えから活動を再開した。その後も新型コロナの感染は2、3波と続き年度を通してコロナ禍の中の活動となった。

**1. 棚田の保全・景観** 4～5月の活動休止期間があったものの、6月以降のこまめな活動により六角庵周辺、棚田および田んぼは年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。ただレンコン畑は雑草に覆われレンコンの花が咲かない畑となった。また、当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りも実施し、「唐櫃の清水」からの棚田の景観確保をすることができた。なお次年度も作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

### 2. 主な作物栽培

**(1) 稲作** 予定どおり6月に田植えをして、7～8月の草取りは実質1回、あと2回は少人数での実施となった。田植えは緊急事態宣言明けの最初の豊島作業であり、参加者の減少が懸念されたが、子供連れ6家族などもあり42人と多数の参加者となった。稲刈りは前日の雨で濡れた稲穂が刈取り後のコンバインでの脱穀ができないため、急きょ稲架掛けをすることとなった。稲刈りも参加者41名と多数であったため急きょの稲架掛け作業にも対応することができた。また後日、強風により支柱から全て倒れ、豊島在住者の方々により再度の掛け直しをする事態となった。収穫量は例年並みの240kgとなった。

**(2) 蕎麦** 昨年と同じ作付畑に、種まきも昨年と同様に筋まきとし、刈取り作業を効率化した。今年も昨年と同じように肥料を施したものの、畑によりその成長に差が現れ、結局1週間ほど期間を明け2回に分けての刈取り、脱穀となった。収穫量は玄蕎麦50kgの大収穫となった。

**(3) 小麦** 5月は活動休止中のため、豊島在住者

の方々のみで、刈取り～脱穀を実施した。すべての刈取りとはならず、一部のみであったが20kgの収穫となった。11月には畑3枚に種まきをし麦踏みも実施した。なお1枚の畑は土壌が悪い為か他の2枚の畑に比べて明らかに生育が悪く、小麦の茎の色も深い緑色ではなく薄い緑色～黄色となっている。

**(4) レンコン** 活動休止中のためレンコンの植え付けは断念した。景観確保のためにも次年度、再度の栽培を目指す。

**(5) 花の栽培** 花栽培も春先の4～5月は活動休止中であり、計画的な種まき、苗の植え付けができなかった。

**(6) その他作物** そら豆、グリーンピース、玉ねぎ、ジャガイモなど栽培。

**3. 豊島の活動回数、参加者数** コロナ禍の影響で活動は自粛ムードの中であったものの、年度計画の主要活動である田植え、稲刈りには家族連れの参加者が増え、各40人ほどの多数の参加者があり、また少人数でのこまめな活動もあり、活動回数22回となり、延参加者数は226人となった。なお年度当初の正会員は64人、賛助会員は2個人、3法人である。

### 4. その他特記事項

**(1) 収穫物の販売** お米、蕎麦粉、小麦粉、ジャガイモなど会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。

**(2) 水路補修** 水路山側を土嚢袋10個ほどで補強し、水路東側の畔には防草シートを敷設した。水路東側の石垣から垂れ下がる雑草、水路の中の雑草、畔の雑草が錯綜し手間のかかる刈取り作業であったが、畔に防草シートを敷設したことにより、石垣・水路の雑草が刈取り易くなり景観も良くなった。

**(3) 収穫祭他** 12月に収穫祭を開催した。収穫した蕎麦で手打ちの盛り蕎麦や蕎麦チジミを十分に楽しむことができた。3密を避けるために六角庵内部は使用禁止とし屋外海側広場で各自、各家族単位のシートに分かれての食事となった。4月の懇親会、2月の新年会などは中止とし、また4月の総会は書面開催とした。